

ドイツから日本を見ると

環境ジャーナリスト 今泉 みね子

ドイツで暮らしはじめて20年、ドイツの環境対策を日本の雑誌記事や本で紹介する仕事をはじめ10年以上が経つ。

ドイツは「環境先進国」として日本では賞賛されているが、住んでいけば欠点もよくみえるから、もろ手をあげて誉めることはできない。ドイツも日本と同じく工業先進国で、限りある資源を消費して物を生産・販売・廃棄することで経済活動をしており、根本的には同じ問題を抱えているからだ。それでも、日本と比べたときにドイツを誉めたくなる点がいくつかある。

その一つは、多くの市民が社会や環境での出来事に関心をもち、社会に向かって自らの意見を発言・行動するという点だ。

ドイツの環境市民運動は30年前ごろから始まり、90年代までに大きな環境団体がいくつもできた。これらの環境団体や市民グループ、あるいは個人が国や自治体の環境政策を批判するだけでなく、自らもすぐれた例を率先して実行し、国や自治体に提言もしてきたことが、今のドイツの環境政策を生み、「緑の党」を連立政権の担い手にまでしたとすらいえるだろう。

もう一つの誉めたくなる点、日本と異なる点は、「需要に合わせて設備を無制限につくらない」というドイツの姿勢だ。

例えば、ゴミが増えるのに合わせて、大規模な高価な焼却場やガス化溶融炉をつくる（時に



はゴミが減っていても、国からの金を得るためか不必要に大きい施設をつくる)のが日本だとすれば、ドイツではリユース(同じ物を何度も使う)を促進する政令、公共の催し物での使い捨て食器・容器を禁止する自治体の規則、企業に対する高いゴミ回収・処理料金など、ゴミが出ない生活や企業経営のための対策が打ち出される。最近では、企業の大反対にもめげず、ビールや炭酸ガス入り清涼飲料の使い捨て容器(缶やペットボトル)のデポジット制が実施された。

日本では交通量の増加を理由に道路や駐車場をつくる傾向がある。ドイツでもそれがないとはいえないが、一方では unnecessary 自動車交通を減らそうとする対策(安い共通定期券、自転車奨励措置、繁華街への自動車侵入禁止など)が各地で見られる。

日本では「電力需要増加は仕方がない」と受け入れられ、それに対応して高い原発も建設される。「エネルギー消費と経済成長は平行する」と端から決めてかかる学者もいる。省エネも奨励されてはいるにせよ、実際の生活ではなかなか実行されない。

今年の夏の首都圏では原発停止のために節電が呼びかけられたそうだが、過剰冷房や昼間の無駄な照明は相変わらずだった。環境関係の会議の会場ですらそうである。

あるエネルギー関係の専門家会議では、テクノロジーによるCO₂削減ばかりが論じられ、「省エネによるCO₂削減」を口にしたのは私一人で、「ドイツ的な節約の発想は日本では異端なのだ」と痛感した。ちなみに日本ではCO₂排出はいまだに増加している。

一方、ドイツは、CO₂排出が多い石炭に発電燃料の半分を頼っているにもかかわらず、これまでにCO₂を大幅に下げることができた。いろいろな対策でエネルギー消費自体を下げたからだ。そのために景気が悪化したという話も聞かない。ドイツ政府も「エネルギー消費と経済を相関させない」ことを提唱した。

このように、日本では生活習慣や企業運営を変えてでも現状を改善しようとする対策が前面に出されず、現状をそのまま受け入れて、そこから生じる環境問題を技術で解決しようとする傾向があるのに対して、ドイツでは技術は重視するにせよ、まずは無駄を省こうとするソフトな解決策も行われる。ただし、ドイツ人だ

れもがゴミ減量化、省エネ、自動車減らしなどに熱心なわけではないし、環境意識が高いわけでもない。

そこでこれらを促進するために、「金で釣る」という合理的な方法が用いられている。いわゆる環境インセンティブである。建物の省エネ改築への補助金や無料相談、生徒や教師が学校で省エネ・節水をして光熱水道費が下がった場合に、節約された分の半額又は一部を自治体が学校に戻す制度、家庭ゴミの量や回収数に応じて決まるゴミ料金、一部の企業や役所で行われている、自転車通勤や公共交通機関を利用した通勤への優遇措置など内容は様々だ。

モラルだけでは人間は動かないから、環境にやさしい行動をしたら「得をするように」仕向けるという方法は、いかにも合理的だと感心させられる。

そもそもドイツ人は物を大切に使う。車や家電製品を10年以上使うことは普通である。100年前頃に建てられた家の多くは文化財として保存され、市民は好んで改修して住む。買い物でも私からみれば、非常に慎重である。環境への対処の仕方にもこうした国民性が表れているのかもしれない。

このようなドイツから日本をみると、個人の消費の仕方といい、国や自治体による高い公共事業への出資といい、とてつもなく金持ちの国にみえてくる。